

食育の推進に関する施策の進捗状況

(令和 2 年度実績及び課題等)

令和 3 年 8 月 2 日

I 富山の「食」に着目した食育の推進

1 食育県民運動の展開

	R1 実績	R2 実績	R3 計画
①とやま食育推進フォーラムの開催	1回	1回	1回

【取組実績】

- 県民を対象に食育活動を通じ、健全な食生活への理解を深めていただくため、「とやま食育推進フォーラム」を開催し、約 200 名が参加した。

日時：令和 2 年 10 月 26 日（木） 14:00～15:40

場所：富山県教育文化会館ホール

講演：富山で描く私の夢

～Tomomi 流「半農半芸」ライフ～

講師：吉田 朋美 氏



講演（吉田 朋美 氏）

【課題及び対応】

- 食育の推進・実践に関する普及啓発を図るため、食育推進フォーラムを引き続き開催する。

	R1 実績	R2 実績	R3 計画
②富山型食生活モデルメニューの確立・普及	インターネットやイベント等でのPR	インターネットやイベント等でのPR	インターネットやイベント等でのPR

【取組実績】

- 旬の地場産食材や伝統的な食文化を活かした栄養バランスの良い「富山型食生活」や希薄になりつつある郷土料理等の食文化の伝承を図るため、食育リーダー等による普及のほか、「越中とやま食の王国フェスタ 2020～秋の陣～」で、多くの県民への普及を図った。



イベントによる富山型食生活の普及・啓発
「越中とやま食の王国フェスタ 2020～秋の陣～」

【課題及び対応】

- 引き続き、家族参加の料理教室の開催、食育リーダーによる講習会の開催のほか、四季折々の地場産食材を使った栄養バランスの良い「富山型食生活」の普及・PR 活動を展開する。

		R1 実績	R2 実績	R3 計画
③富山型食生活普及に向けた食育推進イベントの開催	開催回数	2回	1回	2回

【取組実績】

- ・ 県民一人ひとりが食育に関心を持ち、食育の実践につなげることを目的に「越中とやま食の王国フェスタ 2020～秋の陣～」イベントでの栄養バランスのとれた富山型食生活等の普及・啓発や栄養改善指導を行った。
- ・ 例年、8月31日の野菜の日ごろに、とやまグランドプラザで野菜摂取の促進と生活習慣病予防を目的として子どもから高齢者までを対象に食育推進イベントを開催しているが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で令和2年度は、中止した。



栄養改善指導

「越中とやま食の王国フェスタ 2020～秋の陣～」

【課題及び対応】

- ・ 富山型食生活の普及には、家庭や職場、地域など様々な場所において、取組みを推進する必要がある、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を図りながら実施する。

		R1 実績	R2 実績	R3 計画
④「栄養の日・栄養週間」の普及	普及啓発の推進	普及啓発の推進	普及啓発の推進	普及啓発の推進

【取組実績】

- ・ 「栄養の日（8月4日）」、「栄養週間（8月1日～7日）」を中心に、エビデンスに基づいた正しい情報の発信により、適切な食生活の実現することを目的に、県民に対して普及啓発を行った。
- ・ 令和2年度は、栄養の日・栄養週間の周知、県ウォーキングイベントにおける栄養相談を実施した。また、災害時の食の備えを普及啓発するための小冊子を作成した。（富山県栄養士会へ委託）

【課題及び対応】

- ・ 「栄養の日・栄養週間」を契機に、自身の食生活について振り返るきっかけを提供し、望ましい食習慣の確立を推進する。また、令和3年度は、災害時の食の備えについて普及啓発するため、各地域において住民対象の講習会を開催する。（富山県栄養士会へ委託）



歩こう推進大会における栄養相談



栄養の日・栄養週間普及リーフレット



災害時の食の備えに関する小冊子

		R1 実績	R2 実績	R3 計画
⑤地域食育推進体制強化事業の推進				
ア) 食育推進連絡会の開催		3回	3回	4回
イ) 食育指導関連教材の整備・貸与回数		44回 (教材数 301)	22回 (教材数 68)	100回
ウ) 食育に関する出前イベントの開催	実施回数	6回	1回	4回
	参加人数	681人	145人	300人

【取組実績】

- 各厚生センターが中心となり、食にかかわる関係機関、団体等と連携し食育に関する共通理解を深めるなど、地域における食育推進体制の強化充実を図った。

具体的な事業内容

- ア) 食育推進連絡会の開催
- イ) 食育指導関連教材（フードモデル、紙芝居、パネル等）の整備と貸与
- ウ) 学校、企業、公民館等での食育に関する出前イベントの開催



食育研修会の開催



出前イベントでの食育指導



【課題及び対応】

- 食育推進連絡会を中心に地域での連携をさらに推進するとともに、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を図りながら、スーパーマーケット、飲食店、事業所等と連携した出前イベントの開催や、食育指導関連教材の紹介により、食育を通じた県民の健康づくりを推進する。

		R1 実績	R2 実績	R3 計画
⑥食育リーダーの養成・派遣	登録者数	48人・団体	55人・団体	55人・団体
	派遣回数	86回	28回	110回

【取組実績】

- 食育の推進を図るため、管理栄養士、医師、歯科衛生士、調理師、食生活改善推進員、農業生産者など「食」に関する知識を持つ方々を「富山県食育リーダー」として養成・登録し、関係機関、団体等が主催する食育講演等に派遣した（富山県栄養士会へ委託）。



食育リーダーによる食に関する研修会



【課題及び対応】

- ・ 新型コロナウイルス感染拡大の影響によるイベント自粛など地域での食育活動機会が減少するなか、様々な分野で活躍する食育リーダーのさらなる養成・登録を推進するとともに、食育リーダーの活用の周知を図り、効果的な派遣を行う。
- ・ 食育リーダーのさらなる資質向上を図るための研修会を引き続き実施する。

	R1 実績	R2 実績	R3 計画
⑦県食育推進計画の普及・啓発	マスメディアを活用した幅広い周知 (県政番組等)	マスメディアを活用した幅広い周知 (県政番組等)	マスメディアを活用した幅広い周知 (県政番組等)

【取組実績】

- ・ 県政番組の「元気とやま みんなのクイズ」など、マスメディアを活用した普及・啓発を実施し、幅広い県民運動の展開を図った。
- ・ 県内各地域で実践されている食育活動の事例を、ホームページ「とやま食育ひろば」に掲載するなど、特色ある食育活動の普及啓発を図った。



県政番組「元気とやま みんなのクイズ」

【課題及び対応】

- ・ 引き続き、各種団体等が開催する会議・研修会、イベント等により食育の普及・啓発に努めるとともに、県政番組での情報提供などマスメディアを活用した幅広い県民運動の展開を目指す。

2 地産地消の推進や生産者と消費者の交流

	R1 実績	R2 実績	R3 目標
①直売所及びインショップにおける農産物販売額	3,556 百万円	3,818 百万円	4,500 百万円

【取組実績】

- ・ 消費者が生産者・産地の「顔が見える」県産品に触れることができる機会をより多く確保するため、県産品購入ポイント制度を実施するとともに、越中とやま食の王国ホームページなどにより、直売所やインショップでの農産物販売のPR等を支援した。

	平成 14 年度	平成 21 年度	令和 2 年度
店舗数	75 店舗	→ 165 店舗	→ 187 店舗
販売金額	387 百万円	→ 1,939 百万円	→ 3,818 百万円



【課題及び対応】

- ・ 新型コロナウイルス感染拡大の影響による外出自粛により、家庭内での食の需要が高まり、直売所等の販売額が増加するなど、地場食材への関心が高まっており、農林水産業へのより一層の理解増進に向けて取組みを推進する。

		R1 実績	R2 実績	R3 目標
②地産地消県民運動の推進				
ア)「とやまの旬」応援団の募集・登録	個人	4,643名	5,499	5,000
	企業・団体	1,264団体	1,525	1,500
イ) 県産品購入ポイント制度		65 日間	65 日間	65 日間

【取組実績】

- ・積極的に地産地消に取り組む企業や団体、個人を応援団として登録し、県民ぐるみの地産地消運動を展開した。
- ・県民に県産品を優先的に選択してもらう動機付けとなるよう「県産品購入ポイント制度」を実施したところ、30,064件（H30：25,091件、R1：22,214件）の応募があった。
- ・子どもと地域住民が一緒に行う農林漁業体験など、地元食材の魅力の再発見につなげる活動を支援した。

「県産品購入ポイント制度」
 応募期間：令和2年9月5日～11月8日
 実施店舗：食品スーパーマーケット・百貨店、青果店、加工食品製造直売所など（339店舗）
 実施内容：米・青果・鮮魚・精肉・加工食品などに貼り付けてある県産を示す「地産地消シール」や「価格ラベル」を10枚集めて特産品のプレゼント企画に応募



県産品に貼られる
地産地消シール



売場などでの
応募用紙・応募箱の設置

【課題及び対応】

- ・引き続き、地産地消「とやまの旬」応援団の登録を促進するとともに、応援団が提案する自主的な地産地消活動に対して支援する。
- ・「県産品購入ポイント制度」については、デジタルツールを活用し、飲食店での利用にも拡大するなど、若者を含めた幅広い世代の消費者へのさらなる浸透に努める。
- ・食を生み出す農林水産業への理解を深めるため、地域で行う農林漁業体験などの活動を引き続き支援する。

	R1 実績	R2 実績	R3 目標
③女性起業組織等への活動支援			
女性の起業件数	186件 (37件)	190件 (39件)	200件 (45件)

【取組実績】

※括弧内は販売額1,000万円以上起業件数

- ・地場産品等の生産や加工に意欲的に取り組む農村女性起業組織のリーダーや起業化を志す農村女性を対象に、活動に必要なマーケティングや経営管理、加工技術などのスキルアップ・リクエスト講座を開催した。



「越中とやま食の王国フェスタ～秋の陣～」
女性起業の開発商品の利用等についてPR

農村女性起業ネットワークによるPR活動
「畑パーティとやま」による消費者イベント
“なやマルシェ” 8月：富山駅、11月直売所「結い」

- ・ 「越中とやま食の王国フェスタ 2020～秋の陣～」では、農村女性が地場の食材を活用して開発した新商品や調理法を紹介した。また、農村女性起業ネットワーク活動として、事業者の施設等を活用した消費者イベント「なやマルシェ」を開催するなど、SNS 等も利用し、食や農林漁業への理解を深める活動を行った。

【課題及び対応】

- ・ 地域農業を活性化するため、女性のパワーを活かした直売や農産加工等の意欲的な起業活動を支援するとともにネットワーク活動「畑パーティとやま」など消費者イベントを通じ食の魅力を発信する。

	R1 実績	R2 実績	R3 計画
④「越中とやま食の王国フェスタ」の開催	2回	1回	2回

【取組実績】

- ・ 「越中とやま食の王国フェスタ 2020～秋の陣～」は、「楽しみ方が広がる！とやまの食～Toyama Food&Gourmet Style～」をテーマに、令和2年10月31日（土）・11月1日（日）、富山産業展示館テクノホール（富山市）で新型コロナウイルス感染症防止対策を徹底し開催。富山の海・野・山の幸を一堂に集め、旬の県内野菜をマルシェスタイルで販売する「王国旬菜市场」、県内各市町村の特産品の販売、商品紹介や料理実演の YouTube ライブ配信、「富富富」のお寿司販売など多彩な催しを繰り広げ、富山の食の魅力をアピールした（来場者数：約10,000人）。
- ・ 「越中とやま食の王国フェスタ 2021～冬の陣～」は、ロイヤルアクア黒部（黒部市）において、期間限定で特別メニューを提供する「越中料理と地酒を楽しむフェア」の開催に向け準備していたが、直前に、新型コロナウイルス感染対策段階が Stage 2 に移行したため中止。



（秋の陣 富山テクノホール）



（冬の陣 「越中料理と地酒を楽しむフェア」の料理）

【課題及び対応】

- ・引き続き、「越中とやま食の王国フェスタ」の「秋の陣」及び「冬の陣」を開催し、「食のとやまブランド」の県内外への発信を図る。

「秋の陣」：収穫の恵みに感謝しつつ、生産活動等の成果や食の魅力を県内外に発信

「冬の陣」：「越中料理」等の魅力を県内外に発信

※ 令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大防止対策を図りながら実施予定。

	R1 実績	R2 実績	R3 計画
⑤子どもたちに対する魚食の普及			
・ 高校、短大生向けのセミナー開催	5 回	1 回	3 回
・ 小学生向け副読本「ふるさと富山湾」配布	9,200 部	9,000 部	9,000 部
・ 学校給食食材提供（県産魚学校給食普及事業）	23.8 万食	18.9 万食	20 万食

【取組実績】

- ・ 県内の高校生・短大生（伏木高校 計1回 13名）を対象に魚食の大切さを教える「さかなの栄養に関する知識の習得」及び「おさかなの捌き方の実習」のセミナーを開催した。
- ・ 富山湾で獲れる魚や水産業の仕組み及び漁場環境を保つための取組みについて理解を深めてもらうことを目的に「ふるさと富山湾～ふしぎの海のおさかな読本～」を9,000部作成し、社会科の副読本として活用してもらうため、県内小学校の5年生及び担当教諭に配布した。
- ・ 富山湾のおいしい魚を知ってもらい、富山湾産魚の消費拡大を図るため、富山県学校給食会等と連携し、県下小学校、中学校等にフクラギの切身等を給食食材として提供した。

【課題及び対応】

- ・ 県産魚を知り県産魚に親しんでもらうため、引き続きセミナーの開催や副読本の配布、学校給食への食材提供に取り組む。

3 魅力ある食文化の継承・創造

	R1 実績	R2 実績	R3 計画
①「とやまの食」を普及する人材「とやま食の匠」の認定（推薦に基づき選考）	6 個人・団体	3 個人・団体	3 個人・団体

【取組実績】

- ・食のとやまブランドを支える人材を育成するとともに、とやまの食の魅力を県内外に発信するため、「とやま食の匠」（特産の匠・伝承の匠・創作の匠の3部門）として新たに3個人・団体を認定した。

○R3年3月現在の認定数
 特産の匠： 69 個人・団体
 伝承の匠： 53 個人・団体
 創作の匠： 45 個人
 計 167 個人・団体

- ・学校、企業、団体等からの依頼に応じて、「とやま食の匠」を講師として派遣した（令和2年度の派遣実績 計2回：新型コロナウイルス感染拡大の影響により、派遣要請が減少）。

【課題及び対応】

- ・「越中とやま食の王国ホームページ」等で、「とやま食の匠」の活動を広く発信し、学校や企業、地域住民等への「とやま食の匠」の派遣促進を図る。

※ 新型コロナウイルス感染拡大の影響で、派遣要請の減少が懸念される。

	R1 実績	R2 実績	R3 計画		
②三世代ふれあいクッキングセミナーの開催	開催回数	72 回	—	72 回	
	参加人数	2,367 人	—	2,000 人	
	内訳	子供	978 人	—	800 人
		親	589 人	—	600 人
祖父母		800 人	—	600 人	

【取組実績】

- ・例年、食を通じたふれあいの輪を地域に広げ三世代の交流を推進する場を提供するため、「三世代ふれあいクッキングセミナー」を開催しているが、令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止した（富山県食生活改善推進連絡協議会へ委託）。



【課題及び対応】

- ・三世代のふれあいを通じて食べものを大切にする心などを伝えるとともに、各世代が健康づくりのための食事について学び、幼い頃から望ましい生活習慣を身につけられるよう、セミナーの一層の推進を図る。

※ 令和3年度は新型コロナ感染防止対策を図りながら、内容を見直して実施

	R1 実績	R2 実績	R3 計画
③越中料理のブランド化の推進	「越中料理」のPR	「越中料理」のPR	「越中料理」のPR

【取組実績】（再掲）

- ・ 「越中とやま食の王国フェスタ 2020～秋の陣～」は、「楽しみ方が広がる！とやまの食～Toyama Food&Gourmet Style～」をテーマに、令和2年10月31日（土）・11月1日（日）、富山産業展示館テクノホール（富山市）で新型コロナウイルス感染症防止対策を徹底し開催。富山の海・野・山の幸を一堂に集め、旬の県内野菜をマルシェスタイルで販売する「王国旬菜市场」、県内各市町村の特産品の販売、商品紹介や料理実演の YouTube ライブ配信、「富富富」のお寿司販売など多彩な催しを繰り広げ、富山の食の魅力をアピールした（来場者数：約10,000人）。
- ・ 「越中とやま食の王国フェスタ 2021～冬の陣～」は、ロイヤルアクア黒部（黒部市）において、期間限定で特別メニューを提供する「越中料理と地酒を楽しむフェア」の開催に向け準備していたが、直前に、新型コロナウイルス感染対策段階が Stage 2 に移行したため中止。



（秋の陣 富山テクノホール）



（冬の陣 「越中料理と地酒を楽しむフェア」の料理）

【課題及び対応】

- ・ 「越中とやま食の王国フェスタ」や「越中とやま食の王国」ホームページ等で、普及・PRを図る。

	R1 実績	R2 実績	R3 計画
④富山県ふるさと認証食品（Eマーク食品）の認証 （申請に基づき審査）	・年2回 ・新規認証15	年2回 新規認証7	年2回 新規認証10程度

【取組実績】

- ・ 年2回、新規募集を行い審査及び認証している。
- ・ 各種イベントやホームページ等で制度の周知を図った。

< Eマーク商品の認証要件 >

- ・ 主要原材料は富山県産 100%であること
- ・ 製造工場等が富山県内にあること
- ・ 食品としての品質が優れていること

< R3.3月現在の累計認証数 >

39 品目 355 商品



【課題及び対応】

- ・ 地産地消の推進や6次産業化などの新たな取組みにより、認証商品の拡大を図っていく。

	R1 実績	R2 実績	R3 計画
⑤新たな「とやま名物」商品開発			
6次産業化とやまの魅力発信事業	6件	5件	5件
「富のおもちかえり」商品開発	2商品	4商品	5商品程度

【取組実績】

○6次産業化とやまの魅力発信事業

- ・農林漁業者が自ら行う新商品・新サービスの開発や販路開拓（6次産業化）を行う県単独の支援制度により、5件の新規取組みを支援した。

○<令和2年度開発商品>



ヨーグルト



いちごジャム・いちごミルク等



干し芋

○「富のおもちかえり」商品開発

- ・富山を訪れた方が思わず手にとり、持ち帰りたくなるような県産農林水産品を使った魅力あるお土産品「富のおもちかえり」21商品について、セット販売の実証やPRを実施した。また、商品のブラッシュアップを支援し、令和2年度に4商品を新たに追加した。

<富のおもちかえり商品>



(令和2年度追加商品)

洋食屋さんのピクルス
富富富 ぶち五平餅

「富のおもちかえり」商品

押し寿司、ます寿し、オイル漬
かまぼこ、ローストビーフ
黒とろろ昆布ふりかけ、ピクルス
魚介や果実のジャーキー、スイーツ

【課題及び対応】

- ・6次産業化商品については、とやま6次産業化セミナーやとやま6次産業化サポートセンターなどにより商品の魅力発信等を支援する。
- ・「富のおもちかえり」商品については、商品力や認知度向上を図りつつ、ラインナップの拡充等に取り組む。

Ⅱ ライフステージに応じた健康増進につながる食育の推進

1 子どもに対する食育の推進

	R1 実績	R2 実績	R3 計画
①毎日しっかり朝ごはん事業の推進 〔 県内全小・中・高校生及び その保護者を対象 〕	朝食摂取と栄養バランスの意識高揚と実践化の普及啓発を継続して図った。	朝食摂取と栄養バランスの意識高揚と実践化の普及啓発を継続して図った。	事業内容を工夫し継続実施をする。

【取組実績】

- 令和2年度は、朝食の役割や栄養バランスのとれた朝食摂取の習慣を身に付けることの大切さを啓発するため、「毎日しっかり朝ごはん！」のキャッチフレーズと、栄養バランスのよい朝食内容やご飯を食べている「きときと君」（元気とやまスコット）のイラストを印刷した食育ランチマットを作成して、県内の小・特別支援学校の全小学1年生に配布し、食に関する指導の推進に努めた。年度末には、「学校給食とやまの日」や「全国学校給食週間」等を意識できるように、食育啓発カレンダー（R3.4～R4.3）を県内全小・中・高・特別支援学校に配布した。また、毎月19日の食育の日などを通じ、学校・家庭・地域が連携を図り、食育に関する取組を推進した。

【課題及び対応】

- 栄養バランスのとれた朝食を摂取する児童生徒が増加するよう学校に啓発するなど、事業内容を工夫し、継続実施する。



食育ランチマットを用いた食育啓発運動（小学校）



食育啓発カレンダーの上部（朝食摂取と脳や体のはたらき）

	R1 実績	R2 実績	R3 計画
②とやま子育て応援団制度の推進 ・ 応援団登録店舗数	2,376 店舗	2,098 店舗	登録推進

【取組実績】

- 子育て家庭のふれあいやコミュニケーションを深める機会を提供する「とやま子育て応援団」を推進し、「家族そろっての食事」の普及・啓発を図った。

〔 実施時期：主に、毎月の「とやまふれあいウィーク」（「とやま県民家庭の日」（毎月第3日曜日）から始まる1週間）の期間中）

【課題及び対応】

- とやま子育て応援団のさらなる利用促進を図るため、PRを強化する。

	R1 実績	R2 実績	R3 計画
③家庭教育かわら版の刊行 (食育に関する記事を掲載)	5 万部配布	5 万部配布	5 万部配布

【取組実績】

- ・ 家庭教育かわら版は、幼稚園、保育所、認定こども園の年少児から小学校 1・2 年の子どもの保護者に配布 (5 万部) している。



【課題及び対応】

- ・ 食育の実践に向け、家庭教育かわら版を活用した食に関する関心の喚起と正しい知識の普及を引き続き実施する。 2020 年号一親子ではぐくむ心と体一

	R1 実績	R2 実績	R3 計画・目標
④学校給食における地場産品の活用促進 <ul style="list-style-type: none"> ・ 市町村推進組織を中心とした推進体制の整備及び県内他市町村産食材の活用促進等に対する支援 ・ 青果市場によるコーディネート体制の整備 ・ 産地・学校給食情報の一元化と情報提供 	活用実績 534 トン (103 品目) 特別給食※ 263 校	活用実績 486 トン (92 品目) 特別給食※ 256 校	活用目標 700 トン (92 品目) 特別給食※ 256 校

※特別給食：地元の農産物や県産食材を積極的に取り入れた献立の提供にあわせ、生産者を招いた給食会や、栄養教諭等による食材の紹介を行うなど、児童・生徒に地元食材への愛着を深めてもらうための取組み

【取組実績】

- ・ 青果市場を中心としたコーディネート体制を整備し、県ホームページも活用して産地情報や給食現場のニーズ等の情報共有を図るなど、学校給食での他市町村産を含めた県産食材の広域的活用拡大を促進するための取組みを行った。
- ・ 児童、生徒への地元の食材に対する知識、理解を深めてもらうための普及啓発を行った。
- ・ また、米の多様な利用について理解を深めてもらうため、学校給食に対する米粉パンの供給に支援した。県下の全小・中学校では、県産コシヒカリによる米飯給食を週平均 3.9 回実施した。
- ・ 新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けた県産牛肉や水産物を県内小中学校等の学校給食に提供するとともに、県産食材への理解促進と望ましい食習慣づくりに向けた食育教材を配布した。
- ・ 県下の小・中学校等で、「富富富」による米飯給食を 2 週間実施した。(令和 3 年 2 月中旬)



「県産食材活用拡大プロジェクト事業」を活用した検討会・普及啓発資料・産地視察

【課題及び対応】

- ・ 青果市場によるコーディネート及び産地・学校給食情報の一元化等を県内に広く普及して、市町村域を越えた県産食材の利用を推進する。

	R1 実績	R2 実績	R3 計画
⑤栄養教諭を中核とした「望ましい食習慣づくり」の推進	栄養教諭配置数 42人	栄養教諭配置数 45人	栄養教諭配置数 53人

【取組実績】

- 令和2年度は、栄養教諭が配置されている県内の各学校において、教科や特別活動における食に関する指導の充実や、地域・家庭と連携し、地産地消の啓発や食育の推進を行った。
- 栄養教諭の配置校では、各校の児童生徒の実態や発達の段階に合わせて、計画的・継続的に食に関する指導を実施している。コロナ禍の中でも、学校ホームページを活用したレシピ集（朝ごはんメニュー）の紹介や食育だよりの発行等、食育の推進についてPTAや地域への啓発を図った。
- 食材を選ぶことの大切さや感謝の心を育むことができるよう、多くの学校で地場産の食材を使った献立提供や生産者との交流活動が行われた。



栄養教諭による授業風景

○「学校給食とやまの日」の取組（舟橋村）

- 「富山県食育推進月間」に合わせて11月中の一日または数日を「学校給食とやまの日」とし、地元の農作物や県内食材を積極的に使用した学校給食を実施している。
- 県内の各小中学校では、市町村、学校給食関係者が連携し、地域の食材を多く取り入れた、特色ある献立を工夫している。
- 舟橋村の「学校給食とやまの日」には、村から提供された舟橋村産の有機米、白ねぎのクリームシチュー、豚みそステーキ、ピーナッツ和え、ミディトマト等が提供された。コロナ感染予防から、生産者を招いての会食を実施できなかったが、有機米の生産者の方の話を聞いたり、給食委員会が放送で地域の食材を紹介したりして、全校で地場産物や地産地消のよさについて理解を深める貴重な機会となった。



舟橋村の献立



○小学生向けの「農」と「食」を紹介する副読本の活用

- 次の世代を担う子供たちが自然の恩恵や食に係わる人々の活動、さらに、ふるさとの農産物のよさを理解するとともに、日本人の伝統的な食文化を理解・継承していけるように、富山県の農業と食（食文化、郷土料理等）を紹介する小学生向けの副読本を活用して、授業を実施している。
- 栄養教諭研修会、学校給食指導者研修会等で、副読本の紹介と活用の啓発を図っている。



副読本を活用した授業

【課題及び対応】

- 令和3年4月には、栄養教諭53名が県内全市町村に配置（前年度より8名増）されており、家庭や地域と連携しながら、一層の食育推進に努める。

- ・ 栄養教諭の配置校では、農林水産業や伝統料理など地域の食文化に対する児童・生徒の理解を深めるため、地域の食文化の特徴を活かした「食材の生産段階から望ましい食生活の実践」までの一貫した学習を地域の農林水産業者や食育関係者などと連携して推進する。

2 若者世代に対する食育の推進

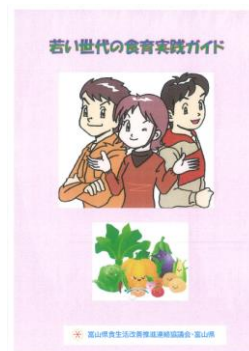
		R1 実績	R2 実績	R3 計画
①若者世代に対する食育講座と調理講習会の開催	開催回数	6回	—	6回
	参加人数	115人	—	100人

【取組実績】

- ・ 朝食の欠食、外食やインスタント食品への依存、女性のダイエット志向など、特に子育て世代や若い世代を対象に、栄養バランスのとれた健康的な食習慣を学習し、実践につなげるため、「若い世代の食育実践ガイド」を作成し、普及・啓発活動に活用した。
- ・ 例年開催している若者世代を対象とした、食育講座や調理体験会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、実施を中止した。



若者世代を対象とした調理体験と完成した料理



若い世代の食育実践ガイド

【課題及び対応】

- ・ 中・高校生、大学生をはじめ若い会社員、子育て世代の親など若者世代に対して食育を普及・啓発するため、「若い世代の食育実践ガイド」を活用した講習会を開催するとともに、イベントに講師を派遣し、指導相談等を行う。
 - ・ 若者が取り組む食育調理体験やセミナーなどの食育活動に支援を行う。
- ※ 新型コロナウイルス感染拡大防止対策を図り、内容を一部変更して実施予定

	R1 実績	R2 実績	R3 計画
②食生活改善チェックシートの活用	食育リーダー等による普及、イベントでの活用	食育リーダー等による普及、イベントでの活用	食育リーダー等による普及、イベントでの活用

【取組実績】

- ・ 食事バランスガイドを活用した食事内容の点検や食生活のポイントを確認できる食生活改善チェックシートを活用、食育リーダー等による普及、「越中とやま食の王国フェスタ 2020～秋の陣～」等のイベントにより食育の実践の普及に努めた。

【課題及び対応】

- ・ 対象者に応じたチェックシートを活用し、地域の講座やイベント等で普及啓発に努める。



食生活改善チェックシート

	R1 実績	R2 実績	R3 計画
③「野菜をもう一皿！食べようキャンペーン」の実施（協力店舗数）	668 店	669 店	啓発促進

【取組実績】

- ・ 野菜の日（8月31日）に合わせて、野菜を販売している小売店（スーパー、コンビニ、八百屋等）を対象に、家庭での野菜摂取を促進するためのキャンペーンを実施した。
- ・ 令和2年度は、企業と連携した野菜摂取促進キャンペーンを実施した。

【課題及び対応】

- ・ 引き続き、野菜の日（8月31日）を契機とした普及啓発や、特定保健指導該当者を対象としたセミナーを開催し、県民の野菜摂取の意識の向上を図る。



店舗でのキャンペーン実施



キャンペーンチラシ

3 働き盛り世代・高齢者に対する食育の推進

	R1 実績	R2 実績	R3 計画
① フレイル予防に向けた食生活改善普及啓発事業	各種講習会の開催 〔食改協 延 215 名参加〕	各種講習会の開催 〔食改協 延 190 名参加〕 〔栄養士会 延 84 名参加〕	各種講習会の開催及び普及啓発

【取組実績】

- ・高齢者の低栄養予防について普及啓発するため、地域のリーダーの育成を図った。（富山県食生活改善推進連絡協議会へ委託）
- ・高齢者の食環境整備につなげるため、配食事業者の実態調査を実施し、資質向上のため研修会を開催した。（富山県栄養士会へ委託）
- ・高齢者の食支援を担う人材育成のため、研修会を開催した。（富山県栄養士会へ委託）

【課題及び対応】

- ・引き続き、関係団体と連携しながら、高齢者を取り巻く人材の育成を図るとともに、フレイル予防に関する媒体（ランチョンマット）を作成する。

	R1 実績	R2 実績	R3 計画
② 「健康寿命日本一応援店」の登録	225 店舗	263 店舗	登録推進

【取組実績】

- ・野菜たっぷり、減塩、シニア向けのメニューを提供する飲食店等を「健康寿命日本一応援店」として登録し、県民への周知を図った。

【課題及び対応】

- ・令和3年度は、引き続き県内飲食店等に「健康寿命日本一応援店」の登録を働きかけ、登録の拡大を図るとともに、県民への周知に努める。



健康寿命日本一応援店
ステッカー

		R1 実績	R2 実績	R3 計画
③ 元気とやま食生活改善クッキングの開催	開催回数	31 回	30 回	元気とやまわくわくクッキングの実施
	参加人数	930 人	811 人	

【取組実績】

- ・健康寿命延伸の最も基本となる、望ましい生活習慣の確立を推進するため、富山県健康増進計画（第2次）に基づき、食生活改善のポイントや栄養バランスのよい料理を普及する「元気とやまわくわくクッキング」を実施した（富山県食生活改善推進連絡協議会へ委託）。

【課題及び対応】

- ・引き続き主食・主菜・副菜のそろった栄養バランスのよい食事の普及啓発に努める。
- ※ 令和3年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を徹底し一部内容を変更して実施。

Ⅲ 食の安全・安心や食の循環を意識した食育の推進

1 食の安全確保の推進

	R1 実績	R2 実績	R3 目標
① 食品安全に関するイベントへの参加人数	3,177 人	2,769 人	3,000 人

【取組実績】

- ・ 食品安全に関する情報をわかりやすく解説するとともに、県民との意見交換を行う食品安全フォーラム等を開催した。

「食品安全フォーラム in とやま ～正しく理解しよう！健康食品～」

(令和2年11月19日、富山県民会館 304 会議室、参加者 66 名)

共催：消費者庁、厚生労働省

- ・ 講演

「あなたは知っていますかー トクホ・機能性表示食品・健康食品の違いをー」

講師：(公財) 日本健康・栄養食品協会 常務理事兼事務局長 青山 充 氏

- ・ パネルディスカッション 「健康食品との付き合い方」



- ・ 県の取組みや食品安全に関する知識を県民に正しく理解してもらうため、多くの来場者が見込める「越中とやま食の王国フェスタ 2020～秋の陣～」に食品安全に関するブースを出展した。

「食の王国フェスタ」に食品安全関連ブースの出展

(令和2年10月31、11月1日開催、テクノホール、参加者約1,766名)

- ・ パネル展示(食品安全に関すること、豚熱に関すること)
- ・ 啓発資料の設置、配布
- ・ アンケートの実施 ほか



- ・ 豚熱(CSF)に関する正確な情報や安全な豚肉を生産するための生産者や行政の取組みを消費者に紹介するほか、風評被害を防ぐため、安全な県産豚肉を PR した。

『とやまポーク応援フェア』の開催

(令和3年1月23日開催、フューチャーシティファボーレ1階
光の広場、参加者 937 名)

県産豚肉の安全性や銘柄についてのパネル展示

豚熱に関する正しい知識の紹介

豚の飼育から安全なお肉が食卓に届くまでを映像等で紹介 ほか



【課題及び対応】

- ・ 食品安全フォーラムの開催及びイベントへの食品安全関連ブースの出展等により、リスクコミュニケーションの強化を図る。

	R1 実績	R2 実績	R3 計画
②とやま食の安全・安心情報ホームページの運営 (アクセス年間件数)	24,986件	23,114件	—

【取組実績】

- ・ 県内の食中毒発生や食品安全フォーラム等の開催内容など、適時的確な情報提供に努めるとともに、より見やすく分かりやすいホームページとするため、関係情報の整理等を行った。

【課題及び対応】

- ・ 適時的確な情報提供、内容の更新に努め、必要な情報がよりスムーズに得られるよう工夫するとともに、ホームページの認知度向上に努める。

	R1 実績	R2 実績	R3 計画
③食品表示講習会の開催	4回	4回	4回

【取組実績】

- ・ 関係団体へのパンフレット等の配布やホームページで情報提供を行うとともに、食品関連事業者を対象とした食品表示講習会（4回）の開催や業界団体、農産物直売所等を対象とした研修会への講師派遣により、食品表示法の内容など、適正な食品表示の周知に努めた。



食品表示講習会の様子

【課題及び対応】

- ・ 食品表示に関し、関係団体に対し情報提供を行うとともに、講習会や研修会を通じて制度の周知に努める。

	R1 実績	R2 実績	R3 計画・目標
④食品表示ウォッチャー調査店舗数	1,133 店舗	1,170 店舗	1,320 店舗
⑤食品表示ウォッチャーの食品表示実態調査等における 適正な店舗の割合	96.7%	97.4%	100%

【取組実績】

- ・ 県内小売店における食品表示の実態を把握するため、消費者からなる「食品表示ウォッチャー」（30名を委嘱）を配置し、ウォッチャーに対する研修会を4回実施するとともに、日常の買い物の中で小売店の食品表示の実態を調査した。
- ・ また、不適正な表示が認められた店舗については、担当職員が立入調査を行い、適正な表示を指導した。

【課題及び対応】

- ・ 食品表示ウォッチャーによる調査を通じた監視・指導体制の強化に努める。

2 食の循環や環境を意識した食育の推進

	R1 実績	R2 実績	R3 計画
①食品ロス・食品廃棄物削減推進のための啓発イベント等の開催	3回	1回	—

【取組実績】

- 第4回食品ロス削減全国大会を本県で開催し、3015 運動や商慣習の見直しなど本県の先駆的な取組みを全国に発信するとともに、関係者が交流できる機会を創造することで、県民、事業者、関係団体、行政の連携を一層強化し、削減に向けた機運の醸成を図った。

第4回食品ロス削減全国大会

日 時：令和2年12月16日（水）13：30～16：20

場 所：富山県民会館

参加者：会場参加者数 250名

WEB 当日視聴者数 561名

内 容：基調講演 「賞味期限のウソ 食品ロスはなぜ生まれるのか」

講師 井出 留美 氏 食品ロス問題ジャーナリスト

トークセッション 「地域で挑む商慣習の見直し～食品ロス削減に向けて～」

コーディネーター 牛久保 明邦 氏

一般社団法人日本有機資源協会 会長、東京農業大学名誉教授

パネリスト 井辻 秀剛 氏 北陸コカ・コーラボトリング株式会社 代表取締役社長

澤田 佳宏 氏 北陸中央食品株式会社 代表取締役社長

池田 和男 氏 アルビス株式会社 代表取締役社長

岩田 繁子 氏 富山県婦人会 会長

崎田 裕子 氏 全国おいしい食べきり運動ネットワーク協議会 会長



【課題及び対応】

- 食品ロス・食品廃棄物削減推進県民会議のもと、県民に対する幅広い周知・啓発を行い全県的な取組みを推進する。

	R1 実績	R2 実績	R3 計画
②食品ロス削減のための普及啓発	啓発資料の制作	啓発資料の制作	HP 等での情報発信

【取組実績】

- 富山県食品ロス削減計画の内容を紹介するハンドブックの作成・配布により、県民の理解を促進し、食品ロス等の削減の取組みのより一層の加速化を図った。
- 納品期限の緩和や予約販売の促進等により食品ロス削減に取り組む事業者の優良事例等をまとめた事例集の作成・配布により、事業者の新たな取組みを促進するとともに、県民の理解を深めた。



- ・ 食品ロス削減に関する子ども向けのパンフレットを作成し、教材として使用してもらうことで、小学生の食品ロス削減に対する理解を深めた。



【課題及び対応】

- ・ 制作したハンドブックや事例集は事業者や消費者に配布し、子ども向けパンフレットは小学生の教材としての活用やHPでの情報発信等により、消費者の食品ロス削減に対する理解を深める。

	R1 実績	R2 実績	R3 計画
③「食べきり 3015 運動」協力店及び「食べきりサイズメニュー」提供店の募集・登録			
「食べきり 3015 運動」協力店	143店	84店	登録推進
「食べきりサイズメニュー」提供店	109店	211店	〃

【取組実績】

＜「食べきり 3015 運動」協力店の募集・登録＞

- ・ 3015 運動を PR する三角柱等を制作し宴会の席等に配置してもらうとともに、幹事向けチラシにより 3015 運動の協力依頼をしてもらうことで、宴会参加者の 3015 運動の実践を促進した。
- ・ また、旅行者等を広く受け入れる県内のホテルや旅館、外食産業において本県の取組みを広く紹介する啓発資材を配布し、協力を促した。



〔 啓発物：三角柱 POP、ポスター、チラシ
配布先：県内ホテル・旅館、居酒屋、仕出し屋等 〕

＜「食べきりサイズメニュー」導入店の募集・登録＞

- ・ 飲食店での食べきりを推進するため、小盛りメニューの導入を飲食店に働きかけ、全県的に小盛りメニューの導入促進を図った。

〔 啓発物：テント型 POP、ポスター、チラシ
配布先：レストラン等県内飲食店 〕

【課題及び対応】

- ・ 県内飲食店等に、「食べきり 3015 運動」協力店及び「食べきりサイズメニュー」提供店の登録を働きかけ、登録の拡大を図るとともに、県民への周知に努める。

	R1 実績	R2 実績	R3 計画
④「とやま環境チャレンジ 10 事業」において食品ロス削減に取り組んだ児童の数	69校 3,022人	63校 2,710人	70校 3,543人

【取組実績】

- ・ 10歳の児童が家族とともに10項目の地球温暖化対策に取り組む「とやま環境チャレンジ10事業」において、平成30年度より食品ロスの削減を取組項目に追加するなど、内容を拡充した「富山環境未来チャレンジ事業」を実施した。
- ・ 家庭科「消費生活・環境」で活用できる副読本を配布した。
- ・ サルベージ・パーティ（家庭で余っている食品を持ち寄って料理するイベント）の開催希望団体と、講師として活動する、県認定「サルベージ・サポーター」とのマッチングを実施した。（3件）
- ・ 手付かず食品の新たな有効活用策となり得るフードドライブ（家庭で余っている食品を集め、食品を必要としている福祉団体などに無償で提供する活動）をモデル的に実施（3回）するとともに、課題整理し、団体等がフードドライブを実施する際に参考となるマニュアルを作成した。



	モデル実施の場所	受付期間	集まった食品
1	黒部市役所	8月3日(月)～5日(水)	122名から942点 (189 kg)
2	高岡市役所ほか5か所	9月24日(木)、25日(金)	123名から920点 (312 kg)
3	アルビス高原町店	10月30日(金)～11月1日(日)	96名から687点 (136 kg)



フードドライブ実施の様子



マニュアル

【課題及び対応】

- ・ 本県の家庭における食品ロスの課題である「手付かず食品」の削減に向けて、引き続き、フードドライブの実施やサルベージ・パーティの開催を支援することにより、家庭における取組みの一層の促進を図る。
- ・ フードドライブについてはまだ取組みを知らない県民が多く、認知度の向上、取組みの浸透・拡大を図るため、様々な主体に実施を呼びかけ、県内全域での開催を目指す。併せて、スーパーと連携して、無人化など効率的なフードドライブの運営に向けた実証実験を実施し、効率的な実施方法を横展開することで、フードドライブ実施店舗の拡大を図る。